

笹沢 魯羊（ささざわ・ろよう）

1、プロフィール

郷土史研究の成果として、下北半島の村誌・町誌、『下北半島史』・『宇曾利百話』等を出版。業績を認められ、青森県褒賞・文化賞・東奥賞、勲六等単光旭日賞を受賞する。

<生没>

1885(明治 18)年1月8日～1972(昭和 47)年2月 13 日

<代表作>

『下北半島史』『宇曾利百話』

<青森との関わり>

三戸郡八戸町生まれ。県内三郡の有力紙の記者を経験、昭和9年、下北半島に青山(せいざん)を発見。大畑町で没する。

2、作家解説

明治 18 年八戸町で誕生。17 歳で上京、内閣統計局に勤務の傍ら正則英語学校を卒業。40 年八戸町書記となる。「奥南新報」の記者を無給で兼任、43 年「はちのへ」の記者となりコラムを担当する。この頃から郷土史に興味を持ち、「魯鈍なる羊」という意味の「魯羊」という筆名を使用しはじめる。『八戸便覧』や『八戸町誌』を刊行し好評を得る。大正3年には青森市の「陸奥日報」に招かれて記者となり、『青森商工案内』『川内案内』を出版する。編集長に昇任するが、乞われて西部役場統計員となり、傍ら「西北新報」を発刊する。

大正9年「弘前新聞」に移り、主筆兼編集長となるが、旬刊「下北新報」の社長河野栄蔵の熱心な誘いを受け、下北行きを決意、主幹となり編集長と記者を兼ねた。時に 35 歳であった。下北一円の郷土史に精力的に取り組み、『下北地方誌』を刊行して「下北新報」の主宰者となる。以後 10 年の間に、『大畑町誌』『大湊町

誌』『田名部町誌』『東通村誌』『川内町誌』『佐井村誌』『風間浦村誌』を出版する。

昭和 14 年新聞統制令で「下北新報」廃刊となるが、大畑町助役、町長を歴任。21 年に公職追放令に該当し辞任する。27 年には『下北半島史』翌 28 年には『宇曾利百話』と代表的著作となった姉妹編を刊行する。以後、大畑公民館長、助役を務め通算 20 年地方自治体に勤務することになる。

昭和 37 年、すぐれた地方史の編集に対しての県褒賞、下北地方郷土史研究の功績で第 15 回東奥賞を受賞、44 年には郷土史家としては県内初の勲六等単光旭日賞を受勲し、第 11 回県文化賞を受けた。

昭和 47 年 2 月大畑町の自宅で老衰のため逝去。享年 86。

遺族からの寄贈資料により大畑公民館に「魯羊文庫」が設置されている。

3、資料紹介

○『下北半島史』

図書

1952(昭和 27)年 9 月

126 mm × 182 mm

大正 10 年 7 月出版の「下北地方誌」に載せた資料を基本にして再検、補足整理して書名を改めたものである。公職追放により公の言論、行為が禁止されていたが、それが解かれたのを記念して執筆したという著者自身の後書きがある。